

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
やさしく かしく たくましい 北小の子の育成 ～どの子にも楽しい学校を どの子にもわかる授業を どの子もかがやく毎日～ (児童像) ・思いやりのある言動ができる子ども ・伝え合い、学び合う子ども ・夢や目標に向かって、最後までやりぬく子ども	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」  
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」  
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A問題: 県平均、全国平均よりも低い。国語B問題: 県平均、全国平均よりもやや低い。 ○算数A問題: 県平均並み、全国平均よりもやや低い。算数B問題: 県平均、全国平均よりも低い。しかし昨年度と比べると上昇傾向にある。 ○国語Aの主語述語をとらえる問題、算数Aの除法で表すことができる二つの数量関係、式を分配法則を使い変形する問題に大きな課題があった。 県【3年～5年】 ○国語 3年生は県平均よりもやや高い。4、5年生は低い。 ○算数 全体的に県平均よりも低い。 4、5年生は昨年度と比較すると、国語・算数とも県平均には届かなかったが、改善傾向にある。 ○3年生の国語では、「話すこと・聞くこと」、算数では、「図形」「かけ算」「10000までの数、分数」に課題が見られる。 ○4年生の国語では、「作文」「物語、説明文の読み取り」、算数では、「小数・分数」の基礎、「かけ算・わり算」の応用に課題が見られる。 ○5年生の国語では、「作文」、算数では「面積」「億と兆、がい数の表し方」「図形」に課題が見られる。 ↓ 【目指す姿】 ○書く力、読み取る力を高い児童 ○文章や数式の意味を読み取れ、活用できる児童	【学習状況調査の結果】 ○自己肯定感は全国・県平均に比べ高い傾向にある。 ○毎日同じ時刻に寝ていないが、全国・県平均に比べ大きく低くなっており、連動するように同じ時刻に起きるも低い傾向にある。 ○テレビゲームやテレビを2時間以上見たりしている児童は5年生では県平均より低いが、6年生は国・県平均より高い。 ○あいさつは、自分からよくしていると考えた児童が国・県平均より高い。 ○宿題をしているかについては、全国・県平均より低い傾向にある。 ○読書の習慣が身につけている児童とない児童がいる。 ○学習時間は、全体的に全国・県平均より低い。 ○算数の授業の内容がよくわかると答えた児童の割合は、5年生は国・全国平均よりも高いが、6年生は低い。 ○理科の授業がよくわかると答えた児童の割合は、全国・県平均並みである。 ↓ 【目指す姿】 ○家庭学習の習慣を身につける ○家庭学習で宿題以外の学習時間を増やす ○授業で「わかった」といえる児童

成果	課題
・様々な課題がある児童に関しケース会議を開催し、職員同士の共通理解や具体的な対策を練り、実施した。 ・授業のユニバーサルデザイン化に校内研究で取り組み、全員が「わかった」と言える授業を目指し、個別の児童の課題を把握しながら授業改善を行った。 ↓ ○その結果、落ち着いた学級の雰囲気での学習を行うことができたことが、算数が5年の時に比べ3.4ポイント上昇の結果につながった。 ○あいさつ運動に児童会を中心に取り組んだことが、児童のあいさつを自分からよくできているという意識の向上へと繋がった。	○全体的に見ると読み取る力、書く力が弱い。 ○宿題の提出が十分できていない傾向がある。 ○宿題以外の家庭学習に取り組んでいる児童が少ない。 ○スマホ・テレビの視聴時間が長く、逆に読書の時間が短い傾向がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
書く力を高める	学年末	自分なりの考えや振り返りを、90% (校内で決めた基準の)の児童が書けるようにする。	・授業の中で自分の意見、ふりかえりを書く機会を増やす(その中で、短い文で、主語述語をはっきりさせ、語句間の関係を意識した文章指導を行う。) ・学校全体でふりかえりの仕方各学年で統一して提示する。 ・論理トレーニングプリントの活用。	・学校全体でふりかえりの仕方の提示を研究部を中心に行ったり、論理トレーニングプリントも実施をしているが、その効果はまだ不十分で達成目標には達していない。	C			
基礎的な内容を定着させる	学年末	県・全国学テで低位の成績であった児童の成績を20%以上上げる。	・校内研修において「授業のユニバーサル・デザイン化」に関する取り組み、個別の児童の実態把握を元にした授業における発問・指示等の工夫・改善。 ・学習に課題のある児童を明らかにし、その児童に対応した取り出し指導、TT指導の体制の構築。	・個別の児童の実態をつかみ、その児童に合わせた授業の工夫できた。 ・TTや取り出し児童などの個別支援の充実を行った。	B			
家庭学習の定着と充実	学年末	全員が家庭学習を提出できること。	・放課後学習サポート事業の活用 ・学習面のつまづきの把握による教育支援部を中心とした対策の実施および評価。 ・専科による休み時間等を使用し、宿題支援。	・学習支援部を中心とした定期的な児童の把握を行い、その結果を評価する体制をつくることできた。 ・隙間の時間を見つけて、短時間の学習指導を行った。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」  
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
・鶴山中ブロック連携による合同研修会の開催による研修テーマの統一および交流。(授業のユニバーサル・デザイン化) ・メディア・チェックを各校で共通して実施。 ・中学校の先生による出前授業。 ・英語担当による英語教育の統一。 ・小中による児童・生徒の情報の共有。	○家庭内での生活リズムの確立 ○家庭学習の取り組み時間の確保 ○ゲーム、スマホ、テレビ視聴の家庭内でのルール確立 ○北小ノーマメディアデーを通しての親子でふれあう時間を設定